

研究大学コンソーシアム の活動について

2022

研究大学コンソーシアムとは？

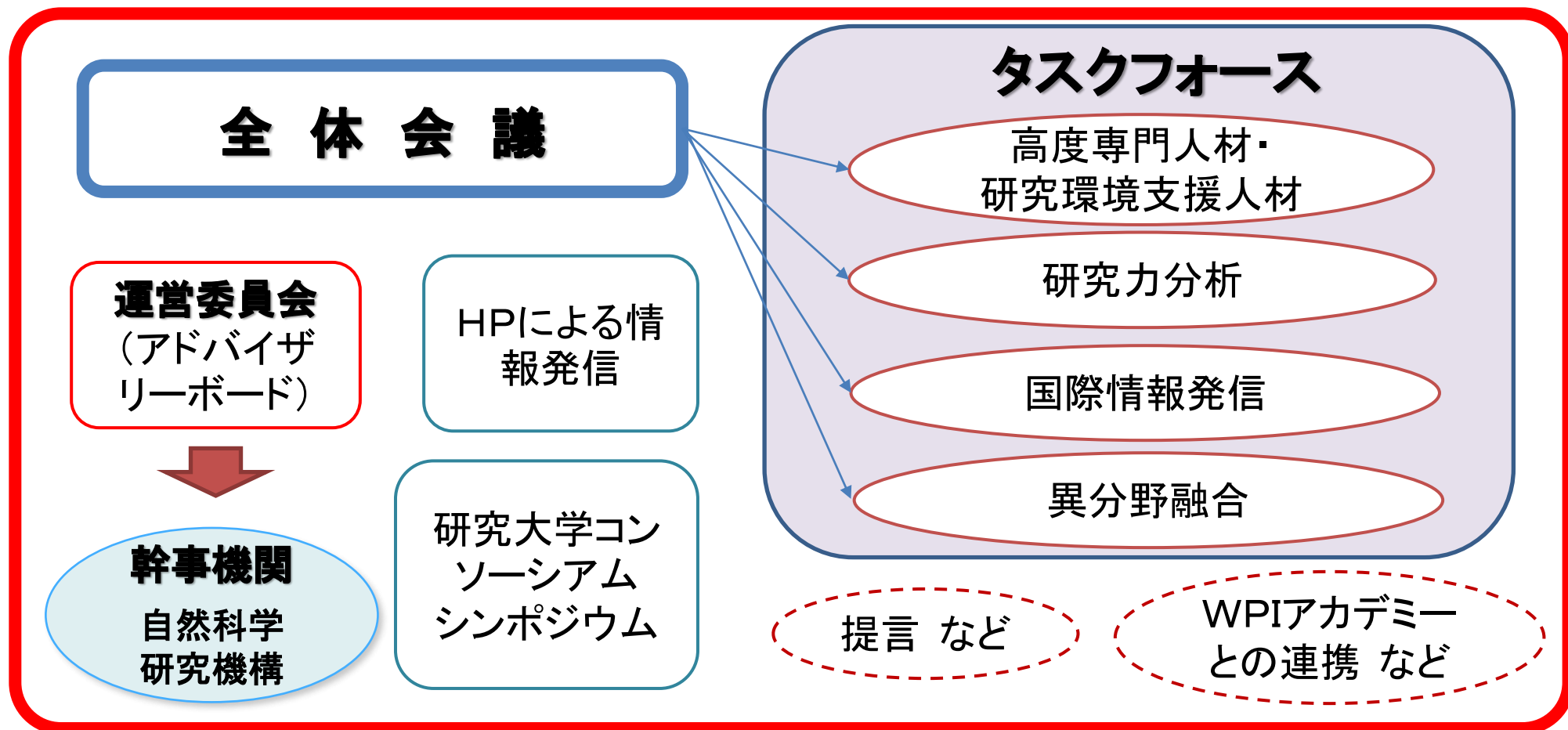
研究大学コンソーシアム（RUC:Research University Consortium）の概要

- 発足：平成29年8月4日
- 構成：研究力強化に積極的に取り組む大学の研究担当理事または副学長の集まりとして組織。現在は36機関で構成。
- 目的：研究力強化に取り組む大学及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）がコンソーシアムを形成し、**各大学等における先導的取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進**するとともに、それら取組の**全国的な普及・定着**を目的とする。
（「研究大学コンソーシアム規約」（平成29年8月4日 研究大学コンソーシアム全体会議）より）
- 活動：
 - ・ 会議体での好事例の共有
 - ・ **HPやシンポジウム**を活用した情報発信・共有
 - ・ 各大学等における共通の課題等をテーマとして、**タスクフォース**を設置し、必要に応じ文部科学省の関係部局も交えるなどして、俯瞰的に討議

研究大学コンソーシアム構成機関

1	北海道大学	19	大阪大学
2	東北大学	20	神戸大学
3	筑波大学	21	岡山大学
4	千葉大学	22	広島大学
5	東京大学	23	山口大学
6	東京医科歯科大学	24	徳島大学
7	東京農工大学	25	九州大学
8	東京工業大学	26	九州工業大学
9	電気通信大学	27	長崎大学
10	横浜国立大学	28	熊本大学
11	新潟大学	29	北陸先端科学技術大学院大学
12	金沢大学	30	奈良先端科学技術大学院大学
13	福井大学	31	東京都立大学
14	信州大学	32	早稲田大学
15	名古屋大学	33	慶應義塾大学
16	名古屋工業大学	34	自然科学研究機構
17	豊橋技術科学大学	35	高エネルギー加速器研究機構
18	京都大学	36	情報・システム研究機構

研究大学コンソーシアム 概要



※幹事機関を自然科学研究機構が担い世話役を務めるとともに、議論に際しては継続的な議論を行うようにつとめる。
※自然科学研究機構による運営にアドバイスをするアドバイザーリーボードとして運営委員会を設置。

運営委員会構成機関 (計10機関)

筑波大学
岡山大学

東京大学
九州大学

名古屋大学
熊本大学

京都大学
奈良先端科学技術大学院大学

大阪大学

自然科学研究機構

研究大学コンソーシアム シンポジウム・全体会議

○研究大学コンソーシアムシンポジウム（第5回）

➤ 日 時: 令和3年10月29日(金) (オンライン開催)

「連携と共創による研究力強化」をテーマとして、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)との共催によりオンラインで実施し、延べ500名を超える参加者があった。

・基調講演及び文部科学省による話題提供

・パラレルセッション

「研究力強化に資する研究支援の連携の取組」

「情報発信・広報活動による連携創出」

「起業による社会課題解決」

他

○全体会議（第7回）

➤ 日 時: 令和4年3月17日(木) (オンライン開催)

➤ 議題:

○令和3年度活動報告及び令和4年度活動計画について

○URAの活動に資するDXプラットフォームの構築について

○研究大学コンソーシアムの今後について

○研究成果のオープンアクセス化について

研究大学コンソーシアム タスクフォース

(1) 高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するTF

目的:URAを含む高度専門人材・研究環境支援人材の活用について、補助金事業終了後も日本の研究現場への定着をはかるため、今後の、大学等への内在化、人材流動化、などについて、大学執行部の立場から、好事例やエビデンスの収集、必要な方策に関する情報共有・議論を行う。

(2) 研究力分析の課題に関するTF

目的:各大学の研究力の特徴を多角的な視点で把握するため、研究力分析指標を活用した研究IR、戦略立案に関して、各大学・研究機関における好事例ならびに必要となる関連情報・エビデンスの収集と共有を目的とする。

(3) 国際情報発信に関するTF

目的:とくに国際情報発信に関して、これまで、東京大学・京都大学と自然科学研究機構の国際広報担当者が中心となり、AAASのEurekAlert!に共同加入するなど国際情報発信プラットフォームをつくり、連携して日本の研究大学における国際情報発信をもりたててきた。これを引き続きこのコンソーシアムの中でタスクフォースをたて、プラットフォームの運営を行っていくとともに、国際情報発信に関する好事例等の情報共有をすすめていく。

(4) 異分野融合TF

目的:「異分野融合研究の推進」について、URAやIRerらによる議論を行い、異分野融合の取り組みの好事例を共有するとともに、異分野融合の研究IR、可視化、評価手法の検討や、異分野研究テーマリストの作成等の取り組みを実施する。

高度専門人材・研究環境支援人材の 活用に関するタスクフォース

高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

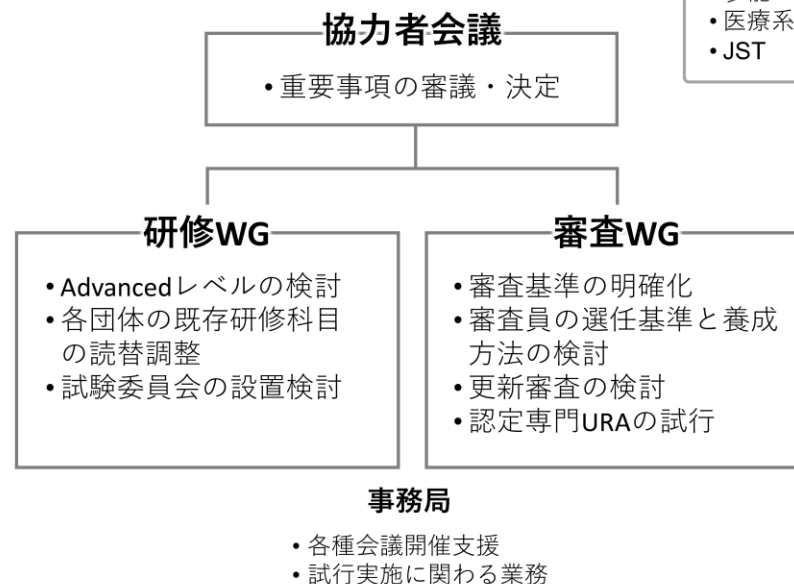
リサーチ・アドミニストレーター等の質保証制度の実施(2023年度も引き続き参画・協力)
文部科学省産業連携・地域支援課及び文科省補助金事業(金沢大学)
(RUCからの参加者:山本全体会議議長、自然科学研究機構・小泉特任教授、
東京工業大学・新田研究戦略部門長、岡山大学・宇根山主任URA)

事業の実施体制

事業の検討体制

- 質保証の実施における課題の検討
- 試行の実施とそれに基づく改善案の検討

- URAの実務等に関する有識者
- リサーチ・アドミニストレーター協議会
- 研究大学コンソーシアム
- 学術研究懇談会
- 大学技術移転協議会
- 多能工型研究支援人材育成コンソーシアム
- 医療系産学連携ネットワーク協議会
- JST
- 等



URA関係団体の協力を得たAll Japanの体制で事業を実施

研究力分析の課題 に関するタスクフォース

「研究力分析に挑む」 研究力分析タスクフォース 事例集

第一部 研究力分析に向き合う

- 1 はじめに（矢吹 命大、平井 克之）
- 2 研究力分析の目的（中島 聡、岡崎 麻紀子、菊田 隆、渡邊 優香）
- 3 EBPM・EBMgtと研究力分析・研究戦略立案（押海 圭一、礒部 靖博、小泉 周）
- 4 研究力分析とデータベース（池田 虎三、上田 盟子、マーク・ハンゼン）

第二部 研究力分析に取り組む

- 東北大学における URA 研究力分析手法勉強会（湯本 道明）
- 学術雑誌データを用いた「分野間親和性」の検討（高橋亮、海邊健二、鈴木一行、高橋さやか、武田浩太郎、Hansen Marc、湯本道明）
- 高エネルギー加速器研究機構における若手教員数の推移と将来予測（安部 保海）
- プレスリリースと論文被引用数の関係性の分析を行う方法論の検討（高橋さやか、海邊 健二、Hansen Marc、高橋亮、鈴木一行、武田浩太郎、湯本道明）
- 被引用数世界大学ランキングデータ蓄積の試み（菊田 隆）
- IR 分析と URA 業務の DX による効率的連携について（中島 聡）
- サイエンスマップを活用した京都大学の研究活動モニタリング～研究の多様性の観点から～（橋爪 寛、岡崎 麻紀子、渡邊 吉康）
- 「部局訪問」による研究力分析の情報共有の実施（久間木寧子、平井克之）
- 多様な強みを把握し、URA による研究力強化につなげるための分析手法（伊藤 広幸）
- URA による研究力分析の取り組み例（渡邊優香）
- 岡山大学における研究 I R の活用事例及び体制整備（松本 匡史）
- 横浜国立大学の研究者総覧における代表的な業績と SDGs の入力内容について（大野由美子、矢吹命大）

研究力分析の課題に関するタスクフォース

自然科学研究機構・小泉周が、THE世界大学ランキング・国際アドバイザリーボードに加わることに(2022年2月～)

THE世界大学ランキング指標の変更(案 2022年2月時点)

1) Citation指標

FWCIのみ から、以下3指標の合算へ

- ・75パーセンタイルFWCI

- ・上位10%引用論文の比率

- ・ネットワーク効果 (googleのページランクのようなモノ)

2) 国別補正、キロオーダーペーパー補正を中止

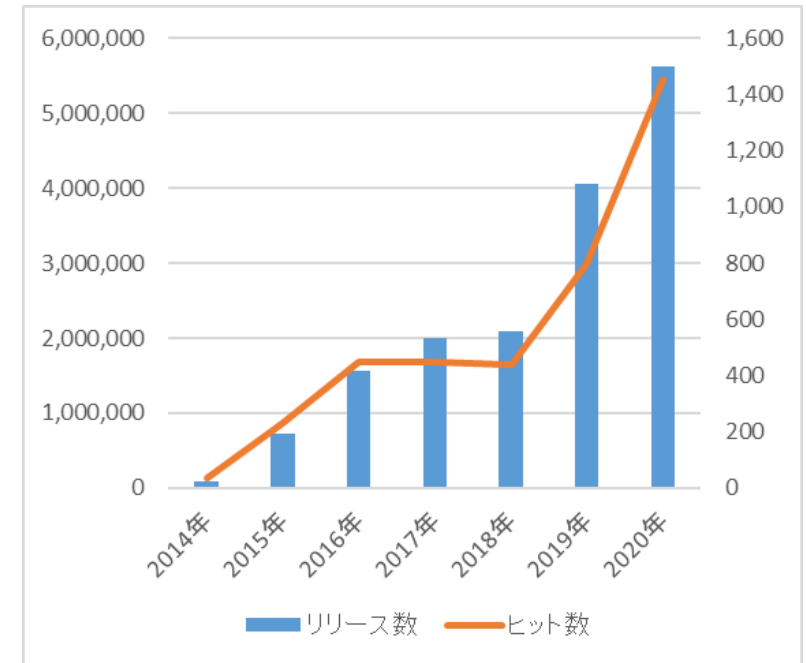
3) Reputationサーベイを、THEが独自に実施

国際情報発信 に関するタスクフォース

国際情報発信に関するタスクフォース

○EurekAlert!との連携による国際情報発信力の強化

大学等の国際情報発信力を強化・促進するため、引き続き、AAAS(米国科学振興協会)とも連携し、EurekAlert!を国際情報発信プラットフォームとして活用するとともに、英文プレスリリース作成支援サービス(NRAP)の利用などの取組みを進めた。EurekAlert!におけるリリース数、ヒット数とも事業開始年(2014年)に比し、**飛躍的に増加した。**



○以下のようなワークショップを開催予定であるとともに、メール等により情報交換・検討・議論を行っている。

・国際情報発信EurekaAlert! Japan Portal ユーザーミーティング(人材育成ワークショップ)

本年度はAAAS Brian Lin 氏の来日に伴い、都内にオンサイト会場を設け、ハイブリッド配信にて、EurekaAlert! Japan Portal ユーザーミーティングを開催し、AAAS 側と意見交換を行う予定。

AAASによる英文プレスリリース作成支援サービス(NRAP)
を引き続き提供



News Release Assistance Program

EurekAlert! is a non-profit, global science news consortium operated by the American Association for the Advancement of Science (AAAS). It disseminates science news to reporters and the public on behalf of scientific organizations worldwide. The News Release Assistance Program (NRAP) is designed to help Public Information Officers (PIOs) with limited resources or a small number of projects to pursue international media coverage through clear, concise and accurate news releases written by experienced science writers.

NRAPの契約をRUCとしてAAASと行い、RUC参画機関で活用。

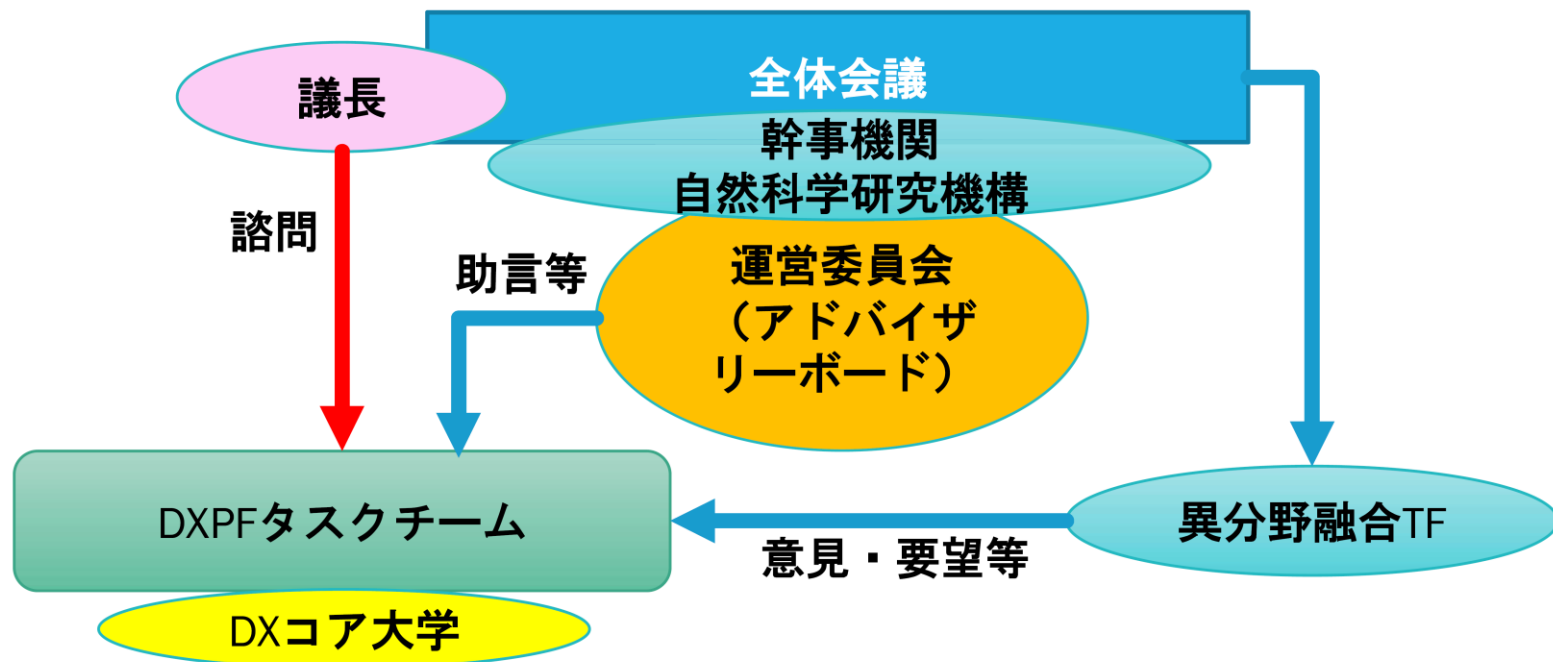


使用希望の大学・研究機関は、座長ならびに幹事機関にご連絡ください。

異分野融合 タスクフォース

異分野融合タスクフォース

MIRAI-DXの「ポストコロナ」試行等に関連して、異分野融合TFとして、異分野融合をURAが進めていく上での課題や、DXPF構築・運用の在り方について議論



2022年3月17日 令和3年度異分野融合TFおよびMIRAI-DX活動の報告会
～組織や分野を超えた異分野融合による研究力強化の加速～

2022年MIRAI-DXセミナー等開催実績

4月 6日 MIRAI-DXオンライン研修会

5月20日 MIRAI-DXセミナー

「人文社会系の研究者をいかに探し出し、総合知を生み出す共同研究チームを生み出せるのか」他

7月15日 MIRAI-DXワークショップ

「意中の研究者をどうやって探し、いかに最強の研究チームを作るか？」

●「RUCエグゼクティブセミナー」「RUC人材育成ワークショップ」の実施

これまで、研究大学コンソーシアムでは、各タスクフォースのテーマに関する勉強会等を実施するなどしてきたが、2019年度から、タスクフォースのテーマ以外でも、研究大学群にとって有益と思われるテーマについては、研究力向上に寄与する取組を実施することとしている。なお、実施にあたっての企画・運営は幹事機関において行うものとする。

2022年度は前年度に引き続き、以下の取組を実施することとする。

(1)RUCエグゼクティブセミナー(1回)

対 象： 研究大学コンソーシアム全体会議メンバー(理事・副学長等)

テーマ：大学における研究力強化に資するもの

(2)RUC研究力強化人材育成ワークショップ(研修会)(2回)

対 象： 研究力強化に携わるURAや事務職員など

テーマ： 大学における研究力強化に資するもの(好事例共有など)

研究大学コンソーシアム エグゼクティブセミナー

研究力強化に関するシンポジウム

「研究力の展開と創生への道」－研究大学強化促進事業の軌跡とこれから－

研究大学強化促進事業最終年度を迎えたことから、10年間の取り組みを振り返るとともに、日本の大学の研究力強化に向けて浮かび上がってきた課題や今後の在り方について、エビデンスをもとに議論する。

開催日時: 令和4年11月15日(火) 14:00－17:00

開催方法: ハイブリッド開催

東京工業大学大岡山キャンパス 蔵前会館くらまえホール 及び オンライン配信

※東京工業大学と共催

プログラム

・開会挨拶 東京工業大学理事・副学長(研究担当) 渡辺 治

・来賓挨拶

[第1部] 東京工業大学における研究大学強化の軌跡 (講演)

[第2部] 日本の大学の研究力の現状と課題 (パネルディスカッション)

＜ファシリテーター＞

自然科学研究機構研究力強化推進本部特任教授 小泉 周

＜パネリスト＞

- Springer Nature Director 大場 郁子

- 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 調 麻佐志 他

[第3部] 研究展開と創生の新たな局面 (座談会)

・閉会挨拶 自然科学研究機構理事 井本 敬二

2つのタスクフォースを主体としたワークショップを開催する。

1) 国際情報発信タスクフォース

EurekAlert! Japan Portal ユーザーミーティング
新規ユーザー向けオリエンテーション
事例紹介
AAAS の EurekAlert!との連携などについて
その他

2) 研究力分析タスクフォース

(想定されるテーマ)

大学の研究 IR の実務上の課題
大学の研究力をいかに測るか
研究力を測る新たな指標
人文社会系研究の評価
ベンチマーク手法や世界大学ランキングについて
その他

研究大学コンソーシアム としての推進事業

DXプラットフォームの構築（MIRAI-DX）

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

MIRAI-DX

研究大学コンソーシアム構成機関の情報を探す



詳細検索

We're committed to doing all we can to assist in the global response to the Coronavirus (COVID-19) pandemic.

Explore all our related research and expertise



53037

プロフィール



47

機関



259653

プロジェクト



757932

研究成果



13783

プレス/メディア

目的

- 分野や機関の枠を超えた共同研究を企画・立案・推進していくため、URA同士が協働する共創の場を用意し、共同研究相手となる研究者を探すためにURAが必要とする研究者情報・研究支援情報を共有するなどし、URAの協働を効果的にすすめるDXプラットフォームを構築する

目標

- 分野や機関の枠を超えた共同研究（産学連携を含む）を新たに複数立ち上げる

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

DX-PF プラットフォームの理念

DX-PFで作りたい世界は、各大学のパイの取り合い競争を激化させることなく、社会的政策的ニーズに応える研究開発プロジェクトの企画者・運営者としてURAが共創する世界である

プラットフォームの世界観

理念（サービスコンセプト）

競争から共創へ

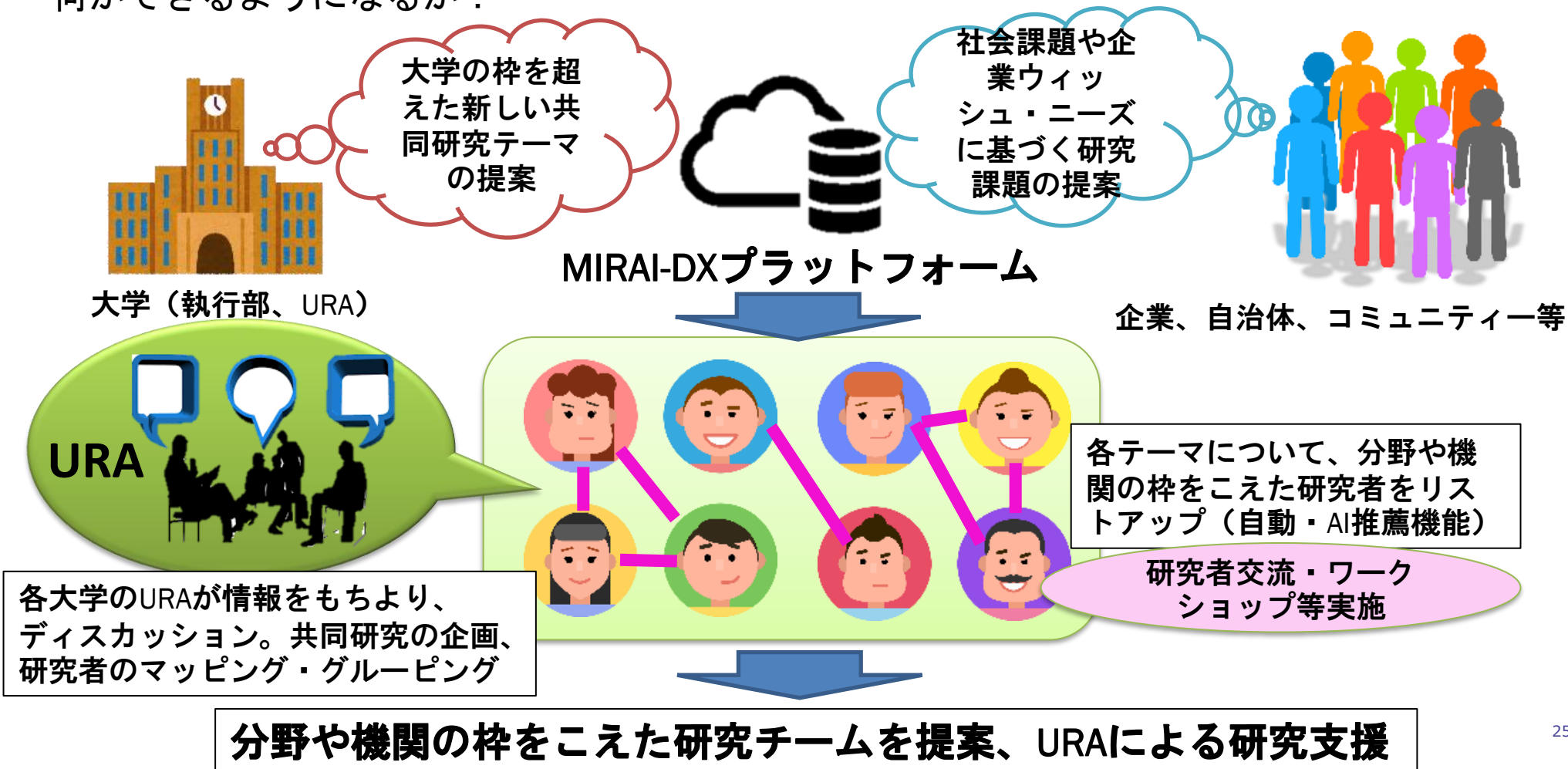
機能要件の前提となるポリシー

- ・ 分野や機関の壁を超えた、ミッションオリエンテッドな研究プロジェクトのためのプラットフォームである
- ・ URA個人の活躍やスキルが可視化され共有される
- ・ 組織を超えたURAのコミュニケーションを促進する
- ・ URAの支援業務の効率を上げ、URAならではの価値創出を最大化する

Multidisciplinary trans-Institutional Research
Assistance Initiative (MIRAI)-DXの推進

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

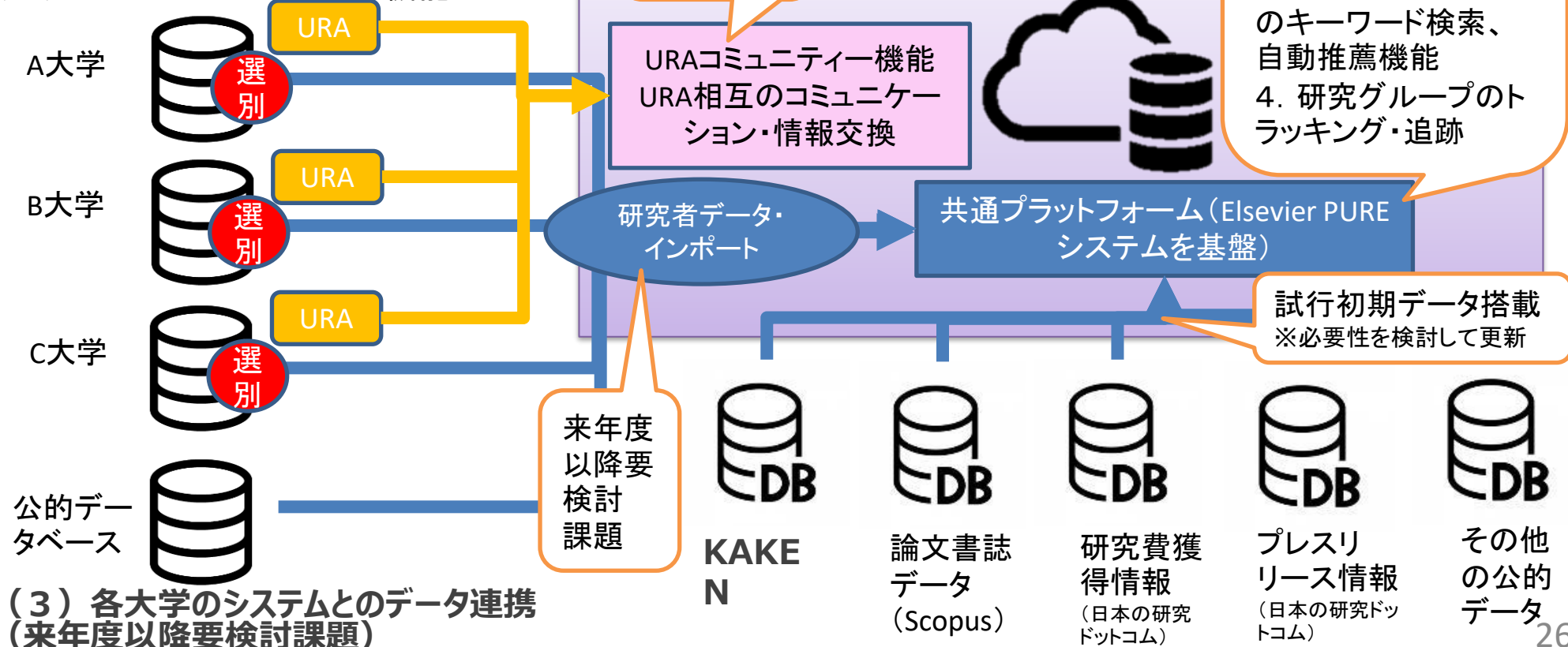
何ができるようになるか？



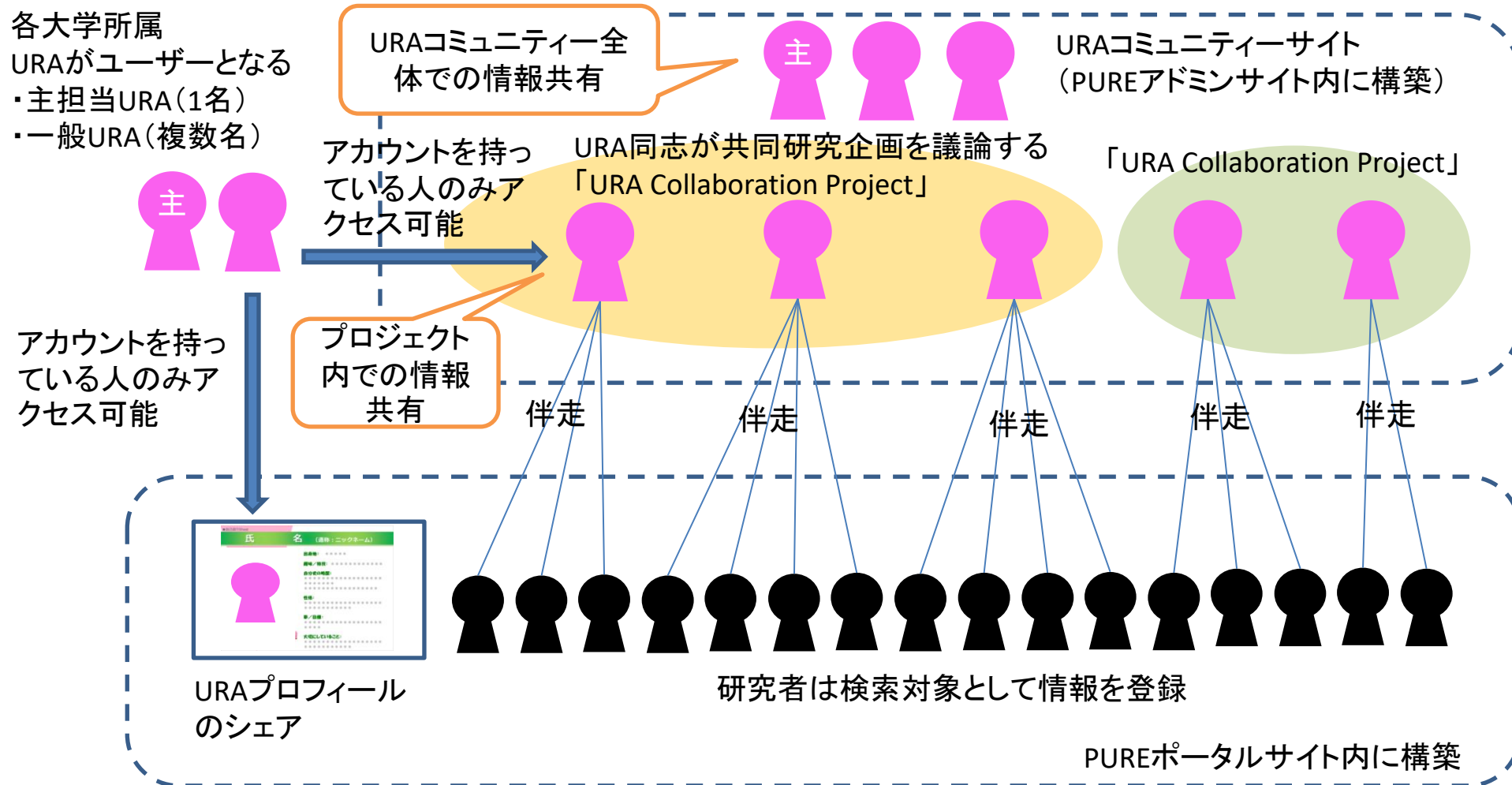
研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

全体像

- (1) 共通プラットフォーム構築 (DXPF)
- (2) URAコミュニティ機能



研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築



研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築



Pureに取り込まれたデータについての説明

	取込み情報	取り込み情報の期間	取り込み数について
KAKEN	研究者の名前とe-rad ID 研究者の所属機関とe-rad ID、 MEXT ID 研究課題情報 研究費情報	2021年12月時点の KAKENデータ	研究者数: 約52800 研究課題情報: 約260000 研究費情報: 約796000(予定)
日本の研究.com	プレスリリースの情報	2021年12月時点の 日本の研究.comデータ	プレスリリース情報: 13700(予定)
Scopus	研究者のScopus Author ID Scopusの論文情報 (プレプリントを含む) 機関のScopus affiliation ID	2011年～2022年3月時 点のScopusの論文 データ	Scopus Author IDを持つ研究者: 約 46700(予定) 論文データ: 約724000(予定) プレプリント: 約40000(予定)

今後、さらに、他の公的データや、RUCで独自に収集した研究者情報を搭載していくことも検討

研究者を探す機能

- キーワード検索
- テキストマイニング“FingerPrint”による類義語検索
- 研究者間の共著関係などによるネットワーク分析
- 論文書誌データによる検索・フィルタリング
- SDGsなどを用いた、カテゴリー検索など

The screenshot displays the MIRAI-DX platform interface for a researcher's profile. At the top, the 'MIRAI-DX' logo is visible. Below it, a navigation bar includes links for 'ホーム', 'プロフィール', '機関', 'プロジェクト', '研究成果', and 'プレス/メディア'. A search bar is located on the right. The main profile section features a placeholder for a profile picture, a large box labeled 'プロフィール', and statistics showing 13828 citations and an h-index of 58. A timeline of research results from 1986 to 2022 is also present. Below the profile, a 'フィンガープリント' (Fingerprint) section is highlighted with a red box, showing a list of research topics. A red box also highlights the 'フィンガープリント' tab in the navigation bar. The topics are categorized under '医学および生命科学' (Medicine and Life Science) and include a wide range of specific research areas like 'Induced Pluripotent Stem Cells', 'Neural Stem Cells', 'Spinal Cord Injuries', etc.

MIRAI-DX

ホーム プロフィール 機関 プロジェクト 研究成果 プレス/メディア

検索...

プロフィール

13828 被引用数 58 h-index

1986 ... 2022 年別の研究成果

概要 フィンガープリント ネットワーク プロジェクト (89) 研究成果 (528) ...

フィンガープリント

活動している研究トピックを掘り下げます。このトピックラベルは、この研究者の研究成果に基づきます。これらがもととなるトピックはフィンガープリントを構成します。

並べ替え順 重み付け アルファベット順

医学および生命科学

Induced Pluripotent Stem Cells Callithrix Neural Stem Cells Spinal Cord Injuries Stem Cells Neurons Primates Brain Genes

RNA-Binding Proteins Cell- And Tissue-Based Therapy Amyotrophic Lateral Sclerosis Pluripotent Stem Cells Cochlea Spinal Cord

Embryonic Stem Cells Neural Crest Diffusion Tensor Imaging Transplantation Parkinson Disease Mutation Regenerative Medicine

Regeneration In Vitro Techniques Astrocytes Cell Line Technology Phenotype Dopaminergic Neurons Stem Cell Transplantation

Proteins Fibroblasts RNA Mesenchymal Stem Cells Motor Neurons Magnetic Resonance Imaging Inner Ear Drosophila

Rodentia Therapeutics Neuroglia Neurosciences Gene Expression Cell Transplantation Axons Mole Rats Brain Mapping

Synucleins Gene Editing Neurogenesis

研究大学コンソーシアム 2021年度 MIRAI-DX 試行

「ポストコロナ」をテーマに試行 研究大学コンソーシアム 36 機関で実施

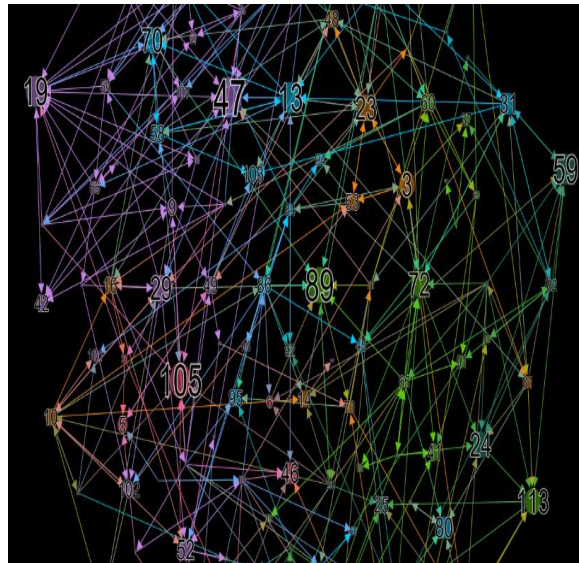
36 大学に呼びかけ。
113 名の研究者から
「ポストコロナ」をテーマとした
共同研究提案を集約。

研究者 1 名につき 1 名以上の伴
走URAが必ず付くという条件

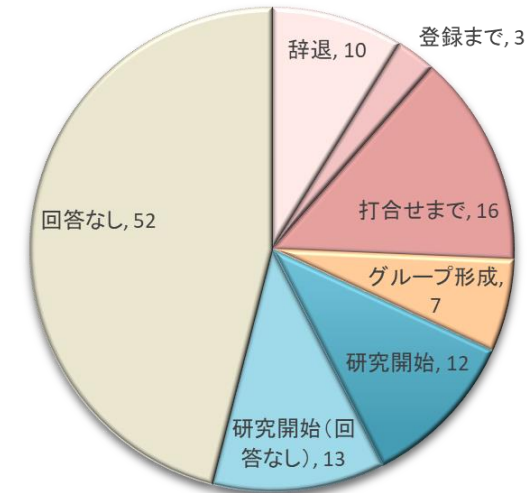
113 名の提案情報をリスト化

互いのインタレストを集約 (図)

これらの情報をもとし、伴走URA
同士でSlack上でコミュニケーションし、MIROを活用しながら研究者
のグループ提案をすすめている



登録研究者113名の状況



- ・集約した研究者情報を基礎として、URAのネットを介した活動により、多機関・多分野の意見の集約を図ることができた。
- ・「ポストコロナ」のようにターゲットとなる研究者が誰なのかが不明確な場合でも、適切であろう研究者集団を見つけ、連携することができた。
- ・トップダウンの課題にボトムアップからの意見を入れることができた。

今後、

- ・多機関・異分野間の連携(産学連携を含む)を積極的に進める場合にも利用できるのではないか？

今後の展開にむけて

- 複雑な社会ニーズに応える研究をアジャイルに推進するDX体制
- URAが接着剤となり、セクターの枠をこえた共同研究をつくるDXプラットフォーム
- これにより、DXによる研究の国際化の推進、産学連携の推進等を図る
- さらに、DXの発展、拡張を通じて、URAの活躍による大学の研究力強化のさならる進展

MIRAI-DXの推進にぜひご協力いただきたく
お願いいたします。

組織間連携・分野融合を通じた 日本の研究力強化に向けて

研究大学コンソーシアムの取り組みと、
見えてきた課題、これからの発展的展開

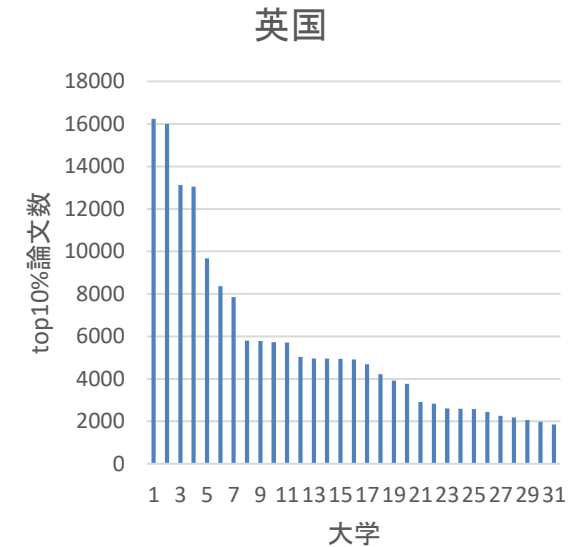
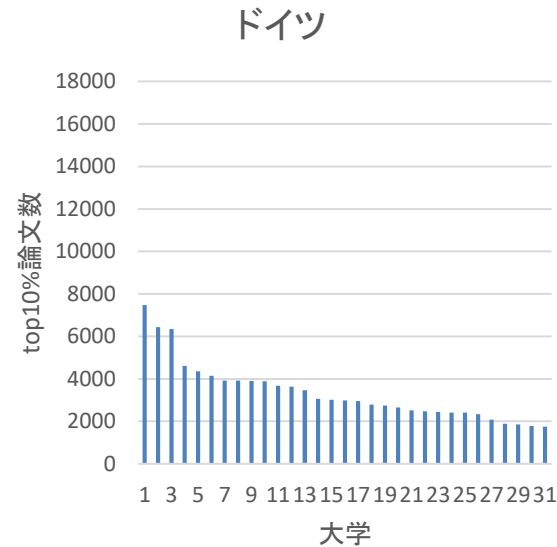
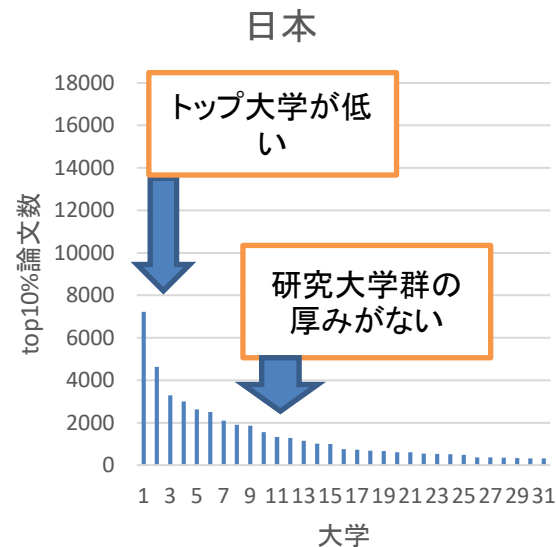
山本 進一

研究大学コンソーシアム全体会議議長

豊橋技術科学大学理事・副学長

見えてきた課題 やせほそる日本の研究大学群

2016-2020年(5年間)
大学・研究機関ごと
Top10%論文数(分野補正後)
Scopus/Scival 調べ



Top10%論文数 (分野補正後)	日本	ドイツ	英国	米国	中国
10000 論文以上	0機関	0機関	4機関	13機関	5機関
5000 論文以上	1機関	3機関	12機関	44機関	20機関
2500 論文以上	4機関	21機関	25機関	75機関	40機関

研究大学コンソーシアム 発展的展開

これまで

これまでの10年間の取り組み

●URAの雇用による各大学の研究力強化にむけた取り組み

URAの雇用・制度の定着・好事例共有

EBPMの推進(研究力分析の推進)

異分野融合の推進(MIRAIDXの立ち上げに結実)

●大学ごとの研究環境の改善・支援

国際情報発信強化・国際レピュテーション向上、設備共用など含む

※赤字はRUCで取り組んできたこと

各大学(大学ごと)に、URAを活用した
研究支援環境整備に貢献

見えてきた課題

しかし、この10年で日本全体の大学の研究力は世界と比較して弱体化
大学ごとの支援だけでは、組織間の連携が不足し、パイの食い合いをしているだけとなる。

また、その競争に疲弊し、大学群の「厚み」が減る結果に。

これから

大学や分野の枠をこえた研究連携が日本の研究力を高める秘策である

今後なすべきこと

オールジャパンで、分野や機関、大学やセクターの枠をこえた共創のための大学間ネットワーク構築による日本の研究力強化へ

研究大学コンソーシアム 発展的展開

組織間連携・分野融合にむけて

日本全体の大学の研究力強化にむけて

分野間、機関の枠を超えた連携の促進が必要

そのために必要な3要素

共有 (SHARE) だけでなく、企画戦略 (Strategy & Planning)、実践 (Action) まで



新たな課題を解決するために、**新・RUC**へ発展的展開

最終ゴール 理想的な未来へ

◎大学と大学共同利用機関法人が共創し、分野や機関の枠をこえた新規の研究コミュニティが醸成され、日本発の研究フロントが次々と生まれる

◎大学・研究者だけでなく、産業界はじめ社会との連携も含め、適切な相手と適切につながり、強力なチーム研究が推進できる。

◎COVID-19のような喫緊の社会課題解決にむけた研究ドリーム・チームをオールジャパンでつくることのできる。

RUC議長として 結語（故 山本進一先生からの最後のメッセージ）

○研究大学強化促進事業や研究大学コンソーシアムのこれまでの活動により、研究者個人や大学組織に対する研究力強化のサポート体制は十分とは言えないが整備された（当初のURAの能力は世界とは比べものにならないレベルであったがINORMS2020で示されたように世界を凌駕するレベルに到達した）。

○今後は研究大学コンソーシアム等での約10年にわたる事務局能力（戦略・統括）を経験し実績を示した自然科学研究機構による「研究の共創する場の提供」と、このURAの「研究者個人同士、組織間をつなぐ力」とのインクルージョンにより、我が国の研究大学の研究力のさらなる推進が強く期待される。

○さらには、「総合知」の観点から、「人文科学系」「社会科学系」の協働参画により、我が国の研究大学の研究力の強みと多様性がさらに伸ばされることが望ましい。